

モンゴルの国家競争力の向上を目指すシーバックソーン^(訳注) クラスターの開発方策

モンゴル発展研究院研究員 D. バトムフ

(要旨)

モンゴルは、経済的競争力の向上、経済構造の近代化、革新的政策の実施、官民協力体制の強化、適切な国家・地域レベルの生産とサービス業の発展、そして失業率と貧困の軽減という緊急の責務に直面している。

このような極めて重要な目標達成には、協力の最適なモデルとなりつつあるクラスターの開発を通じた経済発展政策の見直しが重要である。

M. ポーターのダイヤモンドモデルでは、モンゴルのシーバックソーンは競争力の観点で優位性があるとされている。開発を決定づける潜在的な因子として、条件因子、需要状況、関連・支援産業、企業の戦略・構造・競争などが評価されている。この分析では、モンゴルの環境下で取り組むことは競争力的な優位であるとして、その適切さを支持している。

この調査では、クラスター構築を推進する具体的な法的・政策的枠組みがモンゴルにはないが、既存の産業・技術パークや自由経済圏の法的枠組みが良い基盤になるとしている。ただし、モンゴルのシーバックソーンクラスターの法的・政策的環境の改善を提唱している。

[英語原稿をERINAにて翻訳]

(訳注)

グミ科の植物で、乾燥した砂地に多く育つ。果実はジャム・果実酒などで食用となる他、ビタミン類・油脂が豊富なため、化粧品やサプリメントとして注目されている。